

2010年度秋季講演会報告

2010年度日本惑星科学会秋季講演会実行委員長(名大LOC) 渡邊 誠一郎¹

2010年10月6日から8日にかけて、名古屋大学東山キャンパス野依記念学術交流館にて2010年度秋期講演会が行われました。例年通り、大学院生など若い研究者が多く、活気にあふれた会となりました。期間中、大きな混乱や事故もなく、講演会を無事終えることができました。参加いただいたみなさまには、心から御礼申し上げます。

昨年度の秋季講演会は東京大学で開催され、出席者も多く盛況でしたので、名古屋開催ではだいたい出席者が減少するのではとLOCでは危惧する人もいました。実際には、参加者数は、事前登録していただいた方が123名、当日登録の方が47名で、合計170名という、なかなかの数字を残すことができました。

一般講演数の合計は129件で、うち口頭発表が85件、ポスター発表が44件でした。口頭発表とポスター発表の両方が義務付けられている最優秀発表賞のエントリー講演は6件で、上述の口頭・ポスターの数にはそれぞれカウントされています。また、一般講演とは別に最優秀研究者賞特別講演が1件行われました。城野信一会員プロデュースの名古屋色予稿集(140ページ)は、110部を販売しました。

今回の準備で一番大変だったのは、学会新サーバーで秋期講演会システムの開発をお願いしながら、それをテストして、実際に運用することになりました。荒川政彦情報化専門委員会委員長が中心となり、テレビ会議を何度も開き、技術担当者と打ち合わせながら開発を進め、秋期講演会システムに関しては新サーバー上で運用することができました。現行サーバーが、ちょうど発表賞講演申し込みの締め切りに近い時期にハ

ードウェア・トラブルを起こした時は、開発中の新サーバーで何とか急場をしのぎ、申し込み締め切りの延長などによって対応しました。

講演会場の野依記念学術交流館は、当学会ではほぼ貸し切り状態であったため、2階のコンファレンスホールで講演会を行い、1階を受付、ポスター会場、喫茶、会合スペースとして使用しました。廊下部分の両側にポスターを設置しましたが、やや狭かったかも知れません。講演会中はホストの礼儀?として、最大限、講演を聞くようにしました(まあ、単にLOCの仕事を他の人たちに任せてなまけていたと見えたでしょうが...)。講演時間が8分+質疑3分ということで、やや慌ただしく、また交代時間も取っていなかったため、次第にスケジュールに遅れが生じ、座長の方には心労を掛けたかと申し訳なく思います。もともと生協等の学内食堂が混雑する時間帯を避けるため、午前の講演時間を12時45分まで伸ばしていましたが、さらに遅い昼休みの時間帯にも「月惑星探査の来る10年・第一段階トップサイエンス中間報告」や「はやぶさ2の衝突探査から考える小惑星探査(LOC企画)」などが開催され、「お腹がすいた」とお叱りも受けました。

初日には最優秀発表者賞選考のセッションが行われ、今年も努力のうかがえる内容のプレゼンテーションを聞くことができました。夕刻には、ポスターセッション with BEER と銘打って、ポスター内容を肴にビールを飲みながら議論をする時間帯を設けました。城野会員が酒屋からビールサーバーを運び、氷で冷やして提供してくれました。

二日目には、総会において、東京大学大学院の荒川雅会員が、最優秀発表賞を受賞したことが発表されました。氷XIを経た氷Ihが示すメモリー効果を実験に

1. 名古屋大学
seicoro@eps.nagoya-u.ac.jp



秋季講演会会場風景：野依記念学术交流館ホール

より発見した点が高く評価されたとの松田佳久選考委員会委員長からの講評がありました。荒川会員は昨年度のも優秀研究者賞受賞の東京大学の関根康人会員とともに表彰を受けました。総会の後、最優秀研究者賞特別講演が行われ、関根会員が、「化学実験から惑星の多様性の理解を目指して：惑星物理学から惑星化学、そして惑星生物学へ」というタイトルで、明快でエネルギーに満ちた大音量講演をされました。惑星科学者はもっと周辺分野に進出して、ポストを増やしていこうとの呼びかけには、うなずく若人がたくさんいました。懇親会は、100名近い参加者を得て、学内レス



2010年度最優秀発表賞授賞式：

左が受賞者の荒川雅会員（東京大学）、右が賞状を渡す渡邊誠一郎会長代理

トラン花の木で楽しく行われました。名古屋大学環境学研究科の研究科長として超多忙な山口靖会員には、LOCの唯一の仕事として、懇親会に参加してもらい、挨拶をお願いしました。

私は実行委員長であるにもかかわらず、仕事はほとんどせず、準備・運営は、もっぱら荒川政彦会員、城野信一会員、古本宗充会員に分担していただきました。またWEBや投稿システムについては、大学院博士後



ポスターセッション：活発な議論が行われた

期課程の河村恵里会員が面倒をみてくれました。名古屋大学の地球惑星物理学講座の大学院生やアルバイトの学生にもお手伝いをいただきました。さらに、出村裕英部会長など行事部会や昨年度の東京大学LOCの方々には引き継ぎやその後のアドバイスなどをいただき大変助かりました。改めてこの場をお借りして深く御礼申し上げます。また、来年度の秋期講演会が、加藤学実行委員長を筆頭とする宇宙科学研究所LOCのもと、ますます盛大に行われますことを祈念しています。



2009年度最優秀研究者賞受賞者の関根康人会員(東京大学)による特別講演